

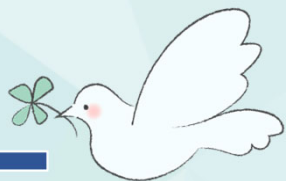
令和4年度

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

ダイバーシティ・シンポジウム

～ウェルビーイング～ “よく生きる”とはどういうことか？
SDGsや多様性が求められる時代での生き方について考えてみよう。

2022.
12月5日(月)
13:30～15:50



開催会場:

富山大学 五福キャンパス
黒田講堂ホール

開催方法:

ハイブリッド形式
(集合形式+オンライン配信)



詳細はチラシ裏面またはQRコードから↑

対象:本学教職員、学生、一般(入場無料)

13:30～13:35 開会挨拶 齋藤 滋(富山大学長)
司会進行 當銘 一文(富山大学学術研究部 薬学・和漢系 准教授)

第1部 基調講演 (FD・SD研修)

13:35～14:35 「全ての人のWell-beingを
実現するためのD&Iとは」
講師 田瀬 和夫氏
(SDGパートナーズ有限会社代表取締役CEO)



14:35～14:50 質疑応答

第2部 富山大学学長賞 第6回「未知に挑む女性研究者賞」表彰式

司会進行 田淵 明子(富山大学学術研究部 薬学・和漢系 准教授)

15:00～15:20 表彰式
15:20～15:45 受賞者スピーチ

【女性研究者部門】森岡 絵里(学術研究部理学系 助教)

【女子学生部門】楠井 優香(医学薬学教育部 博士後期課程3年)

鄧 文傑(理工学教育部 博士課程2年)

15:45～15:50 閉会挨拶 武山 良三(富山大学ダイバーシティ推進担当理事)



富山大学 ダイバーシティ推進センター (令和2年4月1日に「男女共同参画推進室」より改組しました)

〒930-8555 富山県富山市五福3190 富山大学学生支援・地域連携交流プラザ2F

Tel. 076-445-6146 Fax. 076-445-6063 Email: smart@ctg.u-toyama.ac.jp

令和4年度

ダイバーシティ・シンポジウム -2022.12.5-

《FD・SD研修》

講演要旨

近年注目されるようになってきている「Well-being(ウェルビーイング)」という概念はSDGsの前文に記されており、SDGsを包括的に理解するための重要概念の一つです。

Well-beingがこれまでどう理解されてきたか、またそれが多様性、アンコンシャスバイアス、心理的安全性などのD&I(ダイバーシティ&インクルージョン)に関わるトピックやSDGsを取り巻く動向とどう関連づけられるのか。

すべての人のWell-beingを実現するために何が必要か、実践例も交えながら考えます。

講師プロフィール

田瀬 和夫(たせ かずお)氏

1967年福岡県福岡市生まれ。東京大学工学部原子力工学科卒。

1992年外務省に入省。2001年より2年間、緒方貞子氏の補佐官として「人間の安全保障委員会」事務局勤務。

その後、国際連合事務局、デロイトトーマツコンサルティングの執行役員を務め、2017年9月に独立しSDGパートナーズを設立。企業のサステナビリティ方針全体の策定と実施支援、SDGsの実装支援、ESGと情報開示支援、自治体と中小企業へのSDGs戦略立案・実施支援などをリードする。

また、2019年12月には事業会社であるSDGインパクツを設立し、実際に社会に持続的インパクトをもたらす事業へも参入。さらに、2021年9月にはニューヨークのサステナブル・カフェ「Think Coffee」の日本誘致のためThink Coffee Japan株式会社を設立し、現在上記3社の代表取締役。

私生活においては9,000人以上のメンバーを擁する「国連フォーラム」の共同代表理事。

ライブ配信について

◆Web会議システム「Zoom」による参加は事前申込が必要です。

下記URLまたはQRコードからお申込みください。【申込期限:11/30(水)】
後日、オンライン参加に必要な情報(URL等)を登録メールアドレスにお送りします。

<申込フォーム> <https://forms.gle/qsqRDFJEC2rDo3dj9>

※上記の方法で申込ができない場合は、メールでお申込みください。

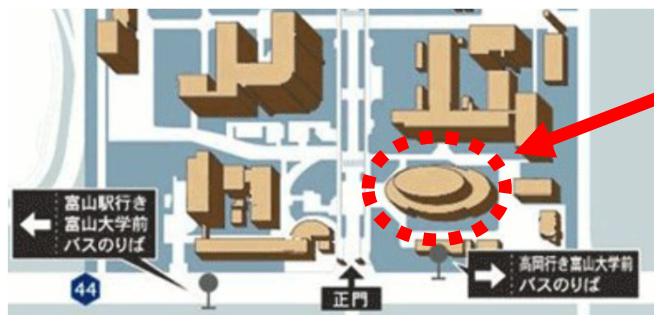
①所属②学年/職位③氏名④URL送付用メールアドレス

申込専用メールアドレス: smart@ctg.u-toyama.ac.jp

申込フォームQR



会場アクセス



富山大学五福キャンパス
黒田講堂ホール

正門から入って右手の楕円形の建物です。

※感染予防対策としてご来場の際にはマスクの着用をお願いします。
※発熱がある場合や体調が悪い場合は来場をお控えください。



富山大学 ダイバーシティ推進センター (令和2年4月1日に「男女共同参画推進室」より改組しました)

〒930-8555 富山県富山市五福3190 富山大学学生支援・地域連携交流プラザ2F

Tel. 076-445-6146 Fax. 076-445-6063 Email: smart@ctg.u-toyama.ac.jp

令和4年度 ダイバーシティ・シンポジウム

富山大学学長賞 第6回「未知に挑む女性研究者賞」受賞者

【女性研究者部門】



もりおか えり
森岡 絵里
富山大学
学術研究部理学系 助教

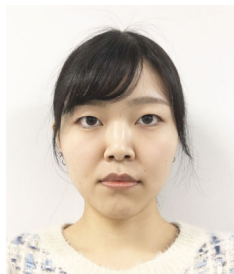
【プロフィール】

2012年、富山大学大学院生命融合科学教育部生体情報システム科学専攻を修了。博士（理学）。カリフォルニア大学アーバイン校医学部生理学・生物物理学科への研究留学などを経て、2015年より現職。専門は時間生物学。

【研究概要】

ショウジョウバエ組織培養モデルと蛍光・発光イメージングを用いて、概日時計の振動メカニズムについて細胞レベルの解析を行っている。最近では、ミトコンドリアのイオン交換輸送体LETM1に着目し、2022年にはLETM1が時計遺伝子振動や細胞内イオン濃度リズムの形成に不可欠であることを報告した。

【女子学生部門】



くすい ゆうか
楠井 優香
医学薬学教育部
博士後期課程 3年

【研究概要】

覚醒剤依存症に対する治療標的となる分子の探索を目的として研究を行った。覚醒剤を連続投与したマウスの脳で発現量が増加する“Piccolo”に着目した。薬物依存において重要な脳領域である側坐核でPiccoloの発現を抑制したマウスを作製した。Piccoloの発現抑制は、覚醒剤の投与で観察される行動異常を抑制し、依存症発現の原因となるドーパミン放出も抑制した。側坐核のPiccoloは覚醒剤依存の治療標的となりうる可能性がある。



ドウオン ウェンジェ
鄧 文傑
理工学教育部
博士課程 2年

【研究概要】

The East China Sea (ECS), as one of the largest marginal seas in the world, provides a high primary production for its abundant biodiversity and fishery resources. However, hypoxia ($DO < 2.0 \text{ mg L}^{-1}$), an ecologically harmful phenomenon, is occurring frequently in the ECS. At present, the study of hypoxia mainly focuses on limited observation and investigation, rare research conducted to quantify the low-oxygen water masses on the outer shelf of the ECS. Our study found the low-oxygen water has expanded from the inner/mid-shelf to the outer shelf of the ECS and used multi-chemical tracers to figure out origins of these low-oxygen waters for the first time.



富山大学 ダイバーシティ推進センター（令和2年4月1日に「男女共同参画推進室」より改組しました）

〒930-8555 富山県富山市五福3190 富山大学学生支援・地域連携交流プラザ2F

Tel. 076-445-6146 Fax. 076-445-6063 Email: smart@ctg.u-toyama.ac.jp

令和4年度 ダイバーシティ・シンポジウム

奨励賞



やまだ かりん
山田 果琳
医学薬学教育部
博士前期課程 2年

【研究概要】

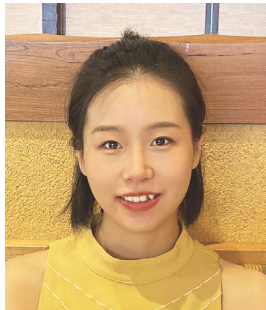
抗がん薬によって引き起こされる末梢性神経障害性疼痛は重篤な副作用のひとつでありながら、発症メカニズムの全容は未解明であり、既存治療薬では多くの課題が残る。新規治療薬の候補薬としてミロガバリンに注目し、既存薬との比較検討を行いながらその有効性や作用メカニズムを明らかにした。



いのうえ まりこ
井上 真理子
医学薬学教育部
博士課程 3年

【研究概要】

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)に参加している64,200組の母子を対象に、妊娠中に摂取した発酵食品の量と、子どもの3歳時点における睡眠不足の関連性について検討を行なった。その結果、妊娠中にチーズを多く摂取していた母親から生まれてきた子どもは、睡眠不足のリスクが低くなることを明らかにした。



よう しょう
楊 笑
理工学教育部
博士課程 3年

【研究概要】

組み合わせ最適化問題は国防、交通、工業、生活などの各分野に広く存在している。最大多様性のグループ化問題は広く研究されている組み合わせ最適化問題の一種だ。この問題を解決するために、動的な母集団サイズを用いた三相探索アプローチというアルゴリズムを提案した。実験と検証の結果から、提案したアルゴリズムの総合性能は、高い競争力を持つ、それ以上であることも確認された。



富山大学 ダイバーシティ推進センター (令和2年4月1日に「男女共同参画推進室」より改組しました)

〒930-8555 富山県富山市五福3190 富山大学学生支援・地域連携交流プラザ2F

Tel. 076-445-6146 Fax. 076-445-6063 Email: smart@ctg.u-toyama.ac.jp